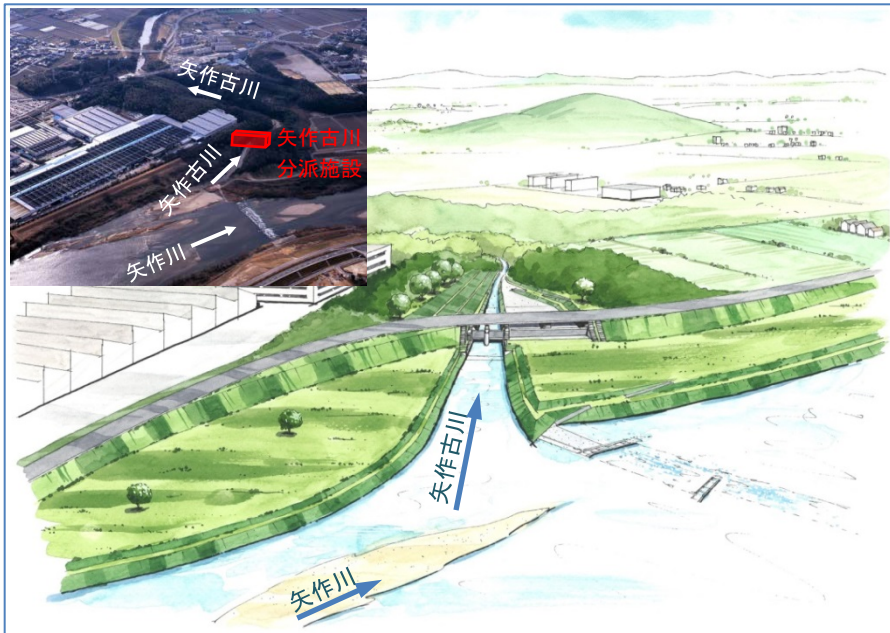


# 矢作古川への分派量を絞る分派施設を建設しています！

平成12年9月の東海豪雨及び平成20年8月豪雨により矢作川支川の矢作古川流域において、大規模な浸水被害が発生しました。このため、矢作川から矢作古川への洪水時の適正な分派（計画分派量200m<sup>3</sup>/s）になるよう、分派施設を整備します。

また、愛知県が実施している床上対策特別緊急事業が完了する平成27年度出水期前迄に分派機能を確保することを目標として、現在工事を進めています。

矢作古川上流からみた分派施設の完成イメージ



## 現場技術者の声

私は現場で入社1年目の女性技術者として、矢作古川分派施設工事の安全管理・品質管理・環境管理に携わっています。

男性技術者よりも体面では劣ってしまいうこともありますが、細かな部分への気配りができることが長所だと思います。

毎日体を動かして大変なこともあります。日々変わっていく現場を見ているのがとても楽しく、素晴らしく感じます。

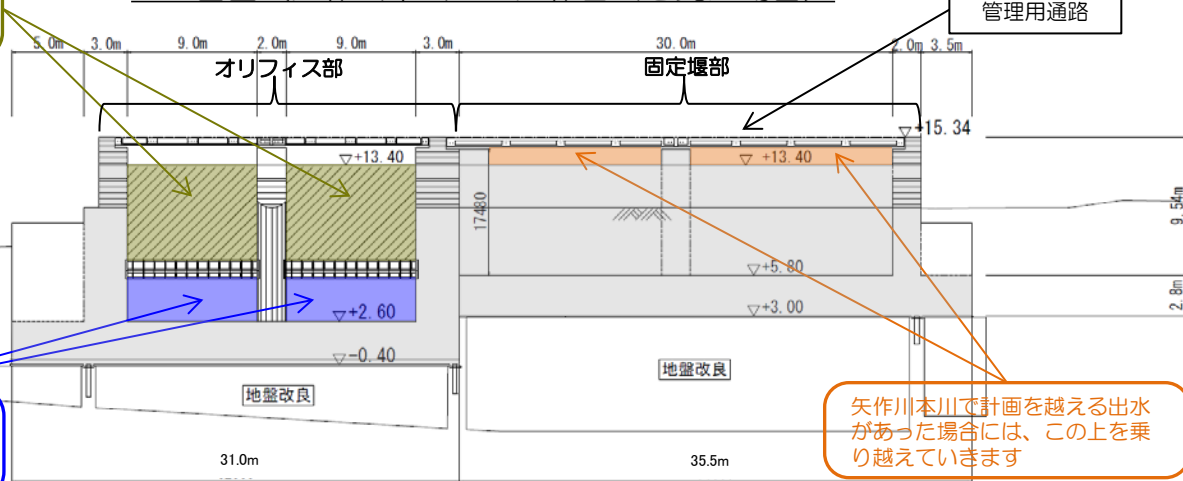
これからも明るさと元気さを生かして竣工に向けて日々奮闘していきます。

大成建設株式会社 山田



この板で、洪水時の矢作古川への過大流入を防ぎます

正面図（矢作川本川から矢作古川を見た場合）



矢作川本川の水は、この開口部から矢作古川へ流出（分派）します

出水時には分派量を200m<sup>3</sup>/sに抑制することができるオリフィス形式を採用しています。

（オリフィス形式：水路等に向けた開口部から水を放出する方法で、開口部の大きさで流出量の調整が可能）

## ■施工フロー



# 矢作古川分派施設の施工の変遷

## H23.1時点（分派施設着工前）



## H26.7時点（分派施設本体内基礎地盤整正）



## H26.9時点（分派施設本体内地盤改良）



囲みの部分が回転して地盤内  
に進入し、固化材  
料と地盤の土を  
攪拌することで  
強固な支持地盤  
を形成します。